

## 《プルーン・すもも》

### ◆第8回薬剤散布について

新梢が混み合うと薬液が十分付着せず、病虫害被害が助長されるので、新梢管理を徹底する。

1. 散布時期:6月11日(火)~16日(日) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
フリントフロアブル	50mℓ	灰星病	前日まで
アーデントフロアブル	50mℓ	シンクイムシ類	前日まで

3. 散布量10a当り ⇒ 400ℓ

### ◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期:6月21日(金)~26日(水) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
(展着剤まくぴか)	10mℓ	—	—
オーシャインフロアブル	33mℓ	灰星病	前日
(ダニゲッターフロアブル)	50mℓ	ハダニ類	前日
イカズチWDG	66g	シンクイムシ類	前日

※収穫中又は収穫に近い品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。

3. 散 布 量・・・10a当り⇒400ℓ

### ◆第8・9回薬剤散布の共通留意事項について

#### 4. 留意事項

- ①収穫中の品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。
- ②この時期は農薬による汚れや果粉溶脱を軽減するため展着剤を使用しないが、薬液をしっかりと付着させたい場合は、展着剤を「まくぴか」10,000倍(水100ℓ当り10mℓ)を使用する。ただし、果粉溶脱等は増加する。
- ③果実の汚れを防ぐため、圧を上げなるべく細霧(ノズル噴口は1.0mm)を主体にしてすぐに乾く時間帯で散布する。
- ④アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。
- ⑤収穫直前の品種は、定期薬剤散布に代えて別記の収穫前薬剤散布を行う。
- ⑥ハダニ類の発生が心配される場合は、ダニゲッターフロアブル2,000倍(水100ℓ当り50mℓ・収穫前日まで・年間1回まで)を加用散布する。

### ◆プルーン・すももの栽培日誌の提出について

出荷予定者の方は下記期日までに栽培日誌を地区役員さんに提出されますようお願い致します。

#### 1. 提出期限:6月20日(木)まで

#### 2. 提出方:・地区役員さんまで提出して下さい。

※役員さんは6月21日(金)までに各流通センター・共選所まで提出して下さい。

※各個人にて、直接各流通センター・共選所提出いただいても結構です。

### 3. 留意事項

- ①第8回防除までは、記入して下さい。散布予定日は記入しないで下さい。
- ②すもも大石早生の出荷がある方は、個人で事前に提出して下さい。
- ③栽培日誌をチェックし法的に問題がある場合は、安全性が確認できないため荷受選果販売ができません。提出されず出荷された場合も同様です。

#### ◆仕上摘果について

仕上摘果の適正時期となる。玉肥大、隔年結果対策として、特に適正着果に努める。

1. 仕上げ摘果の時期・・・果実が親指大になった満開後50～60日頃
2. 摘果の順序・・・品種の特性・樹勢の強弱・着果の多少を見ながら仕上げる。
3. 摘果の程度(再確認)

#### 《プルーン》

1. 小玉品種⇒5cm に2果(3cm間隔)、1短果枝に1果(少ない場合は2個鈴成り)
2. 中玉品種⇒10cm に3果(3～5cm 間隔)を目安に行う。(2～3短果枝に1果)
3. 大玉品種⇒10cm に2果(5～6cm 間隔)を守る(3～4短果枝に1果とする)

#### 《スモモ》

1. 中玉品種⇒1短果枝に1果を基準とし10cm に1果を目安に行う。
2. 大玉品種⇒着果間隔で10～15cm に1果残す。

## 《なし》

#### ◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期:6月12日(水)～16日(日) 実際散布日記入 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展 着 剤	10ml	—	—
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	50g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日
ペンコゼブ水和剤	200g	黒斑病・輪紋病	30日前

3. 散 布 量:10a当り⇒棚栽培450ℓ/立木栽培500ℓ以上

#### 4. 留意事項

- ①モスピラン顆粒水溶剤に代えて、バリアード顆粒水和剤 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50g)を使用してもよい。

#### ◆西洋ナシ管理について

西洋ナシは側枝の水平以下誘引を行い、樹形の形成と早期花芽形成を図るため、枝の柔らかい6月中旬に実施する。

なお、新梢の誘引は伸長が止まった7月下旬～8月上旬の時点で行う。

#### ◆南水・豊水の管理について

側枝基部から発生する新梢は伸長が良く、そのため側枝先端部が弱りやすい。養分が先端まで移動するように、側枝基部の背面から発生する上向きの新梢は早期(木質化する前の6月中旬頃まで)に除去する。

## 《ウメ》

#### ◆かいよう病防除について

春先より風雨が強いと発生しやすい環境になる。芽枯れ部やアメの出ている枝の切除を行う。

#### ◆豊後の収穫出荷講習会について

開催日	曜	開催時間	集合場所	担当
6月14日	金	午後 2:00	松代農業総合センター	伊藤

※初集荷は、6月17日(月)より集荷致します。なお、早まる方は松代総合センターまで連絡下さい。

# 《あんず》

## ◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期:収穫直前 実際散布日記入 月 日  
 2. 調 合 量:水100ℓ当り ※混用順に記載。 ※収穫前日とは、24時間前です。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
オンリーワンフロアブル	50mℓ	灰色かび病・灰星病・黒星病	前日
㊦バリアード顆粒水和剤	25g	シンクイムシ類	前日

3. 散 布 量:10a当り⇒400ℓ以上  
 4. 留意事項

- ①収穫する品種は、散布後24時間以降の収穫とする。
- ②降雨が続き散布時期を失した場合でも、晴れ間をねらって必ず散布する。
- ③品種によっては収穫期に2週間以上の差があるものもあり、標高によっても違うので収穫直前散布を徹底する。
- ④山形三号が特に弱いので必ず散布後の出荷とする。
- ⑤バリアード顆粒水和剤に代えて、ダントツ水溶剤4,000倍（水100ℓ当り25g・収穫3日前まで）を使用してもよい。ただし、収穫前規制に十分注意する。
- ⑥収穫果の灰星病の発生は、共選販売にとって大きな問題となるため、防除の徹底をする。

## ◆栽培日誌の提出について

1. 提出期限:あんず ⇒ 6月10日(月)まで
2. 提出方法:役員さんを通じてか、直接流通センター・共選所まで提出して下さい。
3. 留意事項
  - ①栽培日誌をチェックし、法的に問題がある場合は販売できません。
  - ②提出されず出荷された場合は、安全性が確認できないので返品対象となります。
  - ③記帳内容には、不備が無いようにお願いします。

## ◆新潟大実系・信州大実系・ハーコット等への補助散布について

1. 散布時期:第7回散布から10日後 実際散布日記入 月 日  
 2. 調 合 量:水100ℓ当り ※混用順に記載。 ※収穫前日とは、24時間前です。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
パレード15フロアブル	33mℓ	灰色かび病・灰星病・黒星病	前日

3. 散 布 量:10a当り⇒400ℓ以上  
 4. 留意事項

- ①前回散布10日以降に収穫が見込まれる園では散布する。
- ②パレード15フロアブルに代えて、フルーツセイバー1,500倍（水100ℓ当り66mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。
- ③降雨が多く灰星病の発生が心配される場合は、もう一度オンリーワンフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50mℓ・年3回まで・収穫前日まで）で特別散布する。  
 ただし、農薬飛散に十分注意する。

## ◆杏の出荷者大会について

下記日程により、出荷に係わる説明を実施致します。

開催日	曜	開催時間	集合場所	担当
6月14日	金	午後 3:00	松代農業総合センター	伊藤

## ◆杏の荷受け開始日について

1. 荷受開始：6月17日（月）より荷受けを開始致します。
2. 荷受時間：松代総合センター ⇒ 午前9時までに持ち込み。  
：各集荷場 ⇒ 各センターに確認下さい。
3. 留意事項  
①持込は、各名前入個人コンテナで行い、原則としてコンテナ管理は個々で行って下さい。  
②伝票は一番上に入れる。  
③弱樹勢等で、収穫が開始日前になる生産者の方は対応いたします。  
松代農業総合センターへお知らせ下さい。  
講習会前でも熟期がきたものは荷受対応致します。

## ◆杏の加工コンテナと個選用出荷資材の配布について

加工コンテナは初回の希望数を配布致しますので御協力をお願い致します。  
加工コンテナの使用については有効に活用できるようにご協力をお願い致します。  
配布日：6月14日（金）出荷者大会終了後  
配布場所：松代農業総合センター  
混雑が予想されますので、事故等がないようご注意ください。

## ◆生食用あんず(ハコット等)収穫出荷講習会について

開催日	曜	開催時間	集合場所	担当
6月24日	月	午前10:30	松代農業総合センター	伊藤

## 《アウトウ》

### ◆収穫時の注意点について

1. 樹冠上部、日当たりの良い所は優先して収穫する。
2. 出来るだけ午前中の涼しい時間帯に収穫する。
3. 着色したら反射マルチは除去する。長く敷いているとウルミ果の発生が助長される。

### ◆6～7月特別薬剤散布の実施について

1. 散布時期:成熟期(晩生種) 実際散布日記入 月 日
2. 調合量:水100ℓ当り ※混用順に記載。 ※収穫前日とは、24時間前です。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
オーシャインフロアブル	33ml	灰星病	前日まで
アーデントフロアブル	50ml	アウトウショウジョウバエ	前日まで

3. 散布量:10a当り⇒400ℓ

### 4. 留意事項

①病害虫の発生が心配される園は特別散布する。ただし、収穫中の品種への農薬飛散に注意する。

### 《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武（篠ノ井西部）：080-1202-0260／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤（信更）：090-7179-9866／伊藤（松代・情報担当）：080-2239-6816

松橋（川中島）：090-4816-6297／根津（更北）080-1203-8576

松澤（若穂）080-1191-5166／寺澤（全域・情報担当・編集）：080-1188-5229

吉澤（全域・情報監修）：090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311